

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1870100953		
法人名	医療法人 富永病院		
事業所名	富永グループホーム		
所在地	福井県福井市西木田3丁目5番13号		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kouhyo-fukui.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870100953&amp;SCD=320">http://www.kouhyo-fukui.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870100953&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年10月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体が病院で有り、健康管理として定期的受診や具合が悪い時受診介助で早期発見・治療に努め、安心・安全に過ごせるよう努めています。身体面として、出来る事はなるべく声かけでいただき、体操(嚥下体操含む)を行ない、リハビリ希望の方は病院へ送迎介助実施し、維持・低下防止を図っています。精神面として、一人ひとりのペースでゆったりと過ごせるよう観察・見守りを行ない、楽しみ事(歌の会、色塗り、散歩等)提供で日常生活の中で自然に維持・向上するよう取り組んでいます。御家族の面会時は必ず会話を行ない、情報交換に努めています。4階建てのアートセンターは、2階で絵画教室、3階でグループホーム、4階で音楽教室を開いており、地域の方々との交流も行なっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

医療法人を母体を持つ当該ホームは、施設長自ら地域の方に絵画教室や音楽療法を開催したり、コーラスなどの練習ができるようにホーム建物の一角を開放しています。多くの方が利用することで地域になくはない憩いの場所になっています。また、職員は認知症を理解し、利用者の精神面を捉えることに努め、日々塗り絵などをする中で手を使ったり、ピアノの演奏で唄ったりする中で、楽しみながら現状が維持できるように取り組んでいます。利用者も年数が過ぎる事で少しずつ重度化してきましたが、定期的な健診を受ける事で異常の早期発見も出来、車椅子を使わず杖や手押し車を使いリハビリも兼ねて歩いています。職員は利用者状況に合わせ見守りや声かけで穏やかな日々を過ごされているホームです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス時その人らしく暮らす事について常に話し合い事業所独自の理念を作っている	その人がその人らしく暮らし続けることを大切に するなどを謳う経営理念をリビングに掲示して います。理念について特別な話し合いや唱和する 機会は持っていませんが、日々その人らしく今ま での生活を大切に出来るように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	地域の人達と挨拶を交わしたり、地域の方 々にセンターを開放し使用して頂いたりし ている	日々の散歩時には地域の方と挨拶を交わし、声 を掛けてもらう事が多くあり、地域の祭り等に参 加しています。ホーム建物の一角を絵画やコーラ スなどで地域の方の活動場所として提供し、発表 会も開催し交流会を行っています。また、今後向 けて子供たちとの交流が出来るように検討してい ます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	グループホームの近隣の方で病院へ行こう として困っている方等がおられると手助けを している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	活動報告やサービスの実際等について、報 告や話し合いを行ない、サービスの向上に 努めている	家族や民生委員、介護相談員、法人事務長等が 参加し運営推進会議を6カ月に1度開催してい ます。ホームから活動や利用者状況、避難訓練、消 防用設備の設置等について報告し、ホーム理解 に繋げ質疑応答をしています。また、地域包括支 援センター職員にも参加を呼び掛けていますが 参加がみられない状況です。	市の職員又は地域包括支援センター職 員が参加し、また、2カ月に1回の開催が できるよう開催日時の調整が期待されま す。行事等に合わせて行うなど、回数を 増やしても参加しやすい方法を検討され てはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員や包括支援センターと連携をと り現状をお伝えし協力関係をとっている	わからない事や何かあれば電話や直接出向い て行き相談していますが、担当者とはなかなか連 絡が取れない状況もあります。また、市から研修 等の案内があった時には出来るだけ参加し協力 関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	入り口の施錠はやむおえずしているが、一 人一人に対して身体拘束はせずに、見守 り・声かけ・介助に努めている	ホームが3階にある為、安全の為施錠してい ますが、外出したい様子を感じたら声かけやコミュ ニケーションを取りながら気分転換を図り拘束感 を感じないよう支援しています。また、身体拘束に ついては職員は理解しており声かけや見守りを 徹底し、ゆとりを持ってケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないよう注意を 払い、防止に努めている	職員同士気をつけあい虐待が見過ごされ ないよう注意を払い防止に努めている		

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解に努める為話す機会を持つよう心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際内容について説明し確認をとり理解してもらっている 疑問点や不明点は、施設長、ケアマネジャーが説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族からの意見や要望は日頃から傾聴に努め、運営に生かすようにしている	家族の来訪時には利用者の状況を伝え、意見や要望がないか聞いています。出された意見は、家族や法人職員、施設長、職員が集まり改善に向けた話し合いを持っています。	出された意見や改善策を他の家族にもがわかるように、毎月発行されているホーム便りに載せてみてはいかがでしょう。同じ思いや意見を持たれている家族に安心と更なる信頼につながるのではないのでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞いて下さり、反映させている	直接、施設長に何でも話ができる環境が整っています。意見や提案があれば法人と話し合い出来る事は速やかに対応し運営に反映しています。就業時間の調整など職員の勤務への要望なども、職員の様子を見ながら働きやすい環境作りが検討され改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況等を把握し、各自が向上心を持って働けるよう声かけや環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、研修の機会をすすめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場で同業者と交流を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人の希望や不安に思っている事等を傾聴し、本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族への聞き取りを充分に行ない、信頼関係づくりを行なっている話		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族への聞き取り、本人の状態観察聞き取りをし今までの状況を把握し、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話しやすい状態をつくり、家庭的な環境のもと人生の先輩として敬い暮らしを共にする関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と普段からよく会話を行ない、共に本人にとって良い方法について話し合い支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室内に家で使用していた馴染みの物を置き、友人知人の面会もすすめている	ホーム近隣に住んでいた利用者が多く、散歩や通院で知人や近隣の方等に会う事があります。気軽に声をかけてもらう事が多く、出会った時には会話を楽しんで頂いたり、車椅子を利用しながら今まで利用していた商店での買い物に出かけるなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の中で集まる時間づくりを持ち、利用者同士が自然と関わりを多く持てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院に入院されても、継続的に本人の様子をみて声かけしたり、御家族にお会いできた時は挨拶・話をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を本人に聞いて思いにそえるよう対応に努めている	利用者や家族から希望や意向は、直接話を聞きながら、ホーム独自のアセスメント表を利用して把握しています。現在は自分の思いを表現できる方が多く、コミュニケーションを取りながら多くの思いを生活への意向などを聞いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族や関係者や本人から生活環境や趣味やどんなサービスを受けてきたか情報を集め把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を観察・見守りし、介護日誌からも把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から聞き取りを行ない、カンファレンスを行ない、思いを反映し必要性の高い項目を入れて介護計画を作成している	利用者や家族から希望をもとに一人ひとりに合わせたケアプランを作成しています。6カ月に1度参加した職員の意見を中心にカンファレンスと見直しを兼ねて行っています。カンファレンスに家族の参加はありませんが、来訪時に意見を聞き、定期受診の結果内容や往診時に医師に病状や指示を聞きながら、必要に応じてケアプランに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、よりよい実践や計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、受け入れ可能な事は話し合いとくんでいる 又、入院が必要であれば病院が併設されているので、入院できる体制が出来ている		

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と長年仲良くしていた知人やボランティアの方々の協力をいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族とよく話し、情報交換を行ない、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	契約時に今までのかかりつけ医を継続できることを説明しています。母体が医療法人で近隣にあることから、24時間連絡が取れ速やかに対応してもらえるように連携を持っています。法人の病院からの往診が月に1回、定期検診が3カ月に1回あり異常の早期発見も出来、利用者や家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師へ状態について報告・相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、状態について情報交換し報告を密にとり、入院中も様子把握に努めている 退院時も情報交換し、看護要約を貰っている 日頃から状態報告に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される段階で、家族と状態や今後について話し、事業所として出来る事を十分に説明し行なっている 家族、職員、かかりつけ医は終末期ぎりぎりまで医療的治療が必要と見極めてからDr判断し入院してもらっている	入居時、家族に終末期についてホームで出来る事や出来ないことを説明して了解を得ています。常に医療行為が必要な状況になれば入院となりますが、医師や家族、職員が話し合いを重ね、出来るだけホームで過ごしてもらえるように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の病院から看護師が医療行為にみえた時におそわったりDr回診時に注意された事を守って行なっている 病院が母体の為緊急時連絡すれば駆けつけてくれる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救助袋をとりつけ、消防の方より指導をうけて、常に職員も意識し近隣に協力をお願いしている	消防署立ち会いの基、年に2回避難訓練をしています。町内会の集まりで消火器の使い方の方の講習に参加し、地域の方に何かあれば協力してもらえるようお願いしています。また、ホームのリビングに救助袋の設置をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時に必ず入る言葉かけや排泄の汚染時他者に気づかれない様にする等誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをおこなっている 利用者の話を傾聴し、記録に残している	常に利用者と接する時や話をする時にはあわてることなく職員はゆとりを持っての対応がなされています。特に排泄時のケアをする時には利用者の尊厳を大切にしています。他の利用者に気づかれないように声かけ工夫したり、トイレのドアを開けたままにしないように心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表しやすい雰囲気づくりを行ない、利用者が決めた事を否定せず出来る事は実行していただき間違っている時は納得出来るよう説明を行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人一人の個性を理解しペースを大切に、その日の過ごし方は希望にそえるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がしたいおしゃれは個性で有り、否定せず支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆっくり食事が摂れるよう心がけ、声かけ様子観察している 本人の能力をみて出来る範囲で	法人の病院の献立で、利用者ごとの健康状態に応じ管理された食事が提供されています。重度化が進んできて一緒に準備等することは難しくなってきましたが、座ってでも出来る食器拭きなどを職員とともにしています。また、利用者の誕生日には、ケーキと一緒に作りお祝しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を毎食チェックし、栄養バランスをとり、水分量も少なめの方には声かけし使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケアを実施している 義歯は寝る前にあずかり、消毒しはめていただく		

富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に記録し、排泄パターンを職員が把握し、排泄誘導や声かけ見守り等を行ない、自立にむけた支援を行なっている	排泄表を利用しながら、個々のパターンに合わせた声かけや誘導をしています。日中は布パンツや紙パンツ等を使用し尿意の感覚を残しつつトイレでの排泄が継続出来るように支援しています。夜間は、転倒防止の為に居室にポータブルトイレを置いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示に従っている 排便の記録を全員に行ない、便秘しないよう飲食物の工夫、体操等の実施等を行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	計画を立てているが利用者の希望も配慮に入れて、ゆったり入浴出来るよう一人入浴で気持ちよく入れるよう支援している	週に2回午後から入浴が出来るように準備しており、希望によっては夏場はシャワー浴にも対応しています。身体状態に変化があってもホーム1階にあるリフト浴を使い、しっかり温もりたい気持ちに合わせて湯船に浸かれるように支援しています。また、拒否傾向の利用者には声かけに工夫をしたり清拭で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活スタイルや習慣を把握し、休息をしていただいたり、安心して眠れるよう声かけ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりが服用している薬について把握しており、心身状態に変化が有る時は病院と連携し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を考え、嗜好品やその人が好きな事を行なえるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調等を考えながら天気に応じた衣類等の調整や出かける時の危険性を見極め外出の支援を行なっている 普段行けない所は家族の協力を得て支援している	希望があれば散歩や買い物に出かけています。3カ月に1度の検診に行く時には散歩も兼ねて出かけたり、花見や地域の祭りには皆で出かけています。計画は立てていますが重度化が進んで出かける機会が少なくなってきました。また、家族が法人の病院に入院されており一人で見舞いに行かれている利用者もあり、安心して出かけられるように支援しています。	重度化が進んでくる中で、外出は難しくなってきましたが、ホームの中だけで過ごすのではなく1階に降り素晴らしい庭や外の景色を見る事で気分転換も出来るので検討されてはいかがでしょうか。



富永グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力にあわせて、お金を所持出来る方には使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員に一声かけてから自由にかけている手紙の希望はないがあれば支援の方向でいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの飾り物や観葉植物、季節の花、季節に応じた入所者の作品を壁に貼る等を行ない、居心地よく過ごせるよう行なっている	食事をする場所とレクリエーションをする場所があります。季節に応じた花を植え季節がわかるように工夫しています。また、皆が協力して作った塗り絵の作品や、日よけに皆で育てた朝顔がありその成長や花を楽しんでいます。また、窓から見える山々が季節の様子を知らせてくれています。	リビングには貝合わせの作品がガラスケースで飾られていますが、事故の防止や生活のしやすさ等を考慮し、置く場所などを検討されてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子とテーブルを置き好きな時間に利用者同士が会話出来るように取り組んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等利用者が日々使い慣れた物や好みの物を置いていただき居心地よく過ごせるよう支援している	利用者の日常の落ち着きをと考え全室畳を敷き、洗面台やタンスが備え付けられています。入居前には家族と相談しながら、今まで使っていたものや使い慣れたものを持ってきてもらえるように説明しています。ベッドやタンス等を持ち込みカレンダーや家族の写真等を飾り、居心地のいい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事わかる事を大切に、安全に声かけ、見守りで出来るだけ自立した動きがとれるよう努めている		